

マタイの福音書 7 : 24 - 29

序論：山上の説教の結びとしての位置づけ

- 群衆はイエスの評判を聞き、病や痛み、悪霊などの苦しみから癒しを求めて集まった
- 山上の説教は、その群衆に語られたイエスの教えであり、本箇所はその結論部分
- 「み言葉を聞く者」が二種類に分けられ、その結果の違いが示される

本論：み言葉を聞く態度が人生の土台を決める

1. 二種類の人の対比

- み言葉を聞いて行う者：岩の上に家を建てた賢い人（24 節）
- み言葉を聞いて行わない者：砂の上に家を建てた愚かな人（26 節）
- 山上の説教全体の流れ（狭い門／広い門、良い木／悪い木）と同じ構造

2. 試練が土台の真価を明らかにする

- 「雨・洪水・風」が両者に同じように襲いかかる（試練は誰にも来る）
- 岩の上の家は倒れない、砂の上の家は「ひどい倒れ方」をする
- 家＝人生、土台＝信仰の基礎
- 試練の時に、み言葉を行う者の信仰は揺るがない

3. 種まきのたとえとの共通点

- 種＝み言葉
- 道端・岩地・茨・良い地という心の態度の違いが実を左右する
- 良い地は「どんな時にも喜んでみ言葉を受け入れる心」
- 30 倍・60 倍・100 倍の実を結ぶ者は、み言葉を聞いて行う者

4. 家を建てることの霊的意味（I コリント 3 章）

- 「どのように建てるかは、それぞれが注意しなければならない」
- 金・銀・宝石・木・草・藁の働きは火によって試される
- 人に見せる善行は報いを得ない（山上の説教の教え）
- 真価は神の前で試される

5. 岩と砂の象徴

- 岩：イエス自身、み言葉、信仰。最も信頼すべき土台
- 砂：偽預言者、偽善、世的価値観。頼りにならない土台
- 賢い人＝真に価値あるものを見抜き、イエスに留まり続ける人

結論：権威あるみ言葉を生きる

- イエスの教えは「権威ある教え」として群衆を驚かせた
- 私たちが手にする聖書は、同じ権威ある神の言葉
- み言葉を「岩として信頼するか」「砂のように軽く扱うか」で人生の結果は変わる
- ヤコブ 1:22

「みことばを行なう人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者となってははいけません」